

# 自分と家族の生活に合った“自分らしい農業”への取組



## 若い農業経営者の部



〔氏名〕 井手 亜理紗・真也

〔市町名〕 伊万里市



### 1. 経営の概要 (令和6年度)

#### (1) 労働力構成

区分	年齢	農業従事日数
本人	39	270
夫	42	270
父	72	270
雇用(年間)	1名	
雇用(臨時)	延べ150人・日/年間	

#### (2) 作目別栽培面積等 (単位:a, kg/10a, kg)

作目	面積	単収	生産量
キュウリ	38.6	28,187	108,804
米	170	391	6,648

### 2. 農業経営のビジョンと戦略

#### (経営ビジョンについて)

フェンロー型ハウスを中心に収量向上を図るため、環境制御から得たデータと圃場の比較を行い環境制御技術の向上を図り、天敵資材を有効的に活用して総合的防除体系を確立することで管理作業の効率化・省力化を図る。周年雇用・スポット雇用で労働力を確保し、その過程で空いた時間を手入れ作業に回すことで管理技術の向上に繋げる。また、家族と協力し合いながら家事・育児の時間確保にも繋げる。管理技術向上を図るため、日々部会員と情報交換を行い切磋琢磨し、自身の「農業をしたい」をいう思いを第一に考えながら、自分と家族の生活に合った“自分らしい農業”の確立を目指す。

#### (1) 短期的目標

- ・反収増を図るため、キュウリ栽培の新情報や技術を部会の研修会で収集、実証検討して導入を図る。
- ・フェンロー型ハウスを中心に収量向上・管理作業の効率化・省力化を図るため、データと圃場を比較して天敵資材が最大限に効果を発揮する環境制御とその制御技術の向上を目指し総合的防除体系を確立させる。

#### (2) 長期的目標

- ・経営面積 38.6aを維持しつつ、環境制御技術の向上により生産コストに対しての最適収量を導き出すことで反収 32t を目指し、収益を 10%向上させ、新規就農者の確保に繋がるような地域のモデル的な経営を目指す。

・自身の「農業をしたい」をいう思いを第一に考えながら、自分と家族の生活に合った“自分らしい農業”の確立を目指す。

### 3. 経営発展に向けた取組状況

#### (1) 経過

- 平成 25 年：農業大学校を卒業後、「自身で農業をしたい」という思いから露地野菜に取り組み、露地と雨除け栽培でキュウリ(3a)を開始。
- 平成 29 年：中古ハウス(18.4a)を有償で譲り受け、施設キュウリを開始。
- 平成 30 年：農薬低減及び薬剤抵抗性害虫への対策として天敵導入を開始。
- 令和3年：前年の結婚を機に、隣町に環境制御技術を導入したフェンロー型ハウス(20.2a)を新設。夫妻が中心となり作業を行う。

#### (2) 取組状況

- ・フェンロー型ハウスで循環扇や自動換気装置による細かな温度管理、炭酸ガス施用やミスト、光量調整による光合成管理も行っており、ハウス内の環境(温湿度、光量、CO<sub>2</sub>濃度)をリアルタイムで監視と制御を行う。
- ・黄化えそ病・退緑黄化病の蔓延防止及び薬剤抵抗害虫への対策として、アザミウマの天敵資材であるスワルスキーカブリダニ剤を導入。天敵導入をきっかけに農薬散布回数が低減し、特にフェンロー型ハウスでは散布回数が約 1/2 になった等、省力化に繋がった他、収穫期間延長や秀品率向上にも寄与しており大きなメリットとなっている。
- ・平成 27 年から 1 名を年間雇用し、収穫を中心に作業してもらい、1 名をスポット雇用して手入れ作業を行っている。従業員と作業前後にコミュニケーションや作業内容の共有をしている。夏場の猛暑の作業は、休憩をこまめにとるなどの管理を行っている。また、ハウスにトイレを隣接し職場環境に配慮している。

### 4. 地域や集落における活動状況等

#### (1) JA 伊万里きゅうり部会及び JA 伊万里きゅうり部会女性部

部会に加入し部会行事や研修会等に参加し意見交換等を積極的に行い、女性部での研修会でも意欲的に情報交換等を行っている。

#### (2) JA 伊万里きゅうり部会「胡青会」

きゅうり部会の若手で構成される「胡青会」に加入し、2か月に1回の地区ごとの研修会や視察研修、親睦会に参加し、地域の仲間たちとの互いのハウスを行き来し研鑽を深め、日々情報交換を行う等、切磋琢磨している。

#### 農業振興センターからのコメント

日々の圃場の観察と細やかな樹の手入れ、作業環境の整理といった「丁寧な」農業経営を行われており、今年度の夏は特に猛暑が目立ちましたが、いつ圃場を訪ねても病害虫が抑えられており、樹勢も維持されていた。

“自分らしい農業”を主軸に置かれ、家庭、育児の時間を大事にされる中、作業の効率化・省力化を目指して環境制御や天敵資材を積極的に導入されており、また資材や出荷経費の見直しを日々行うことで所得向上を目指されている。

地域でも収量は上位に入られているが、更なる反収向上を目指して地域の仲間と情報交換を行い、研鑽を積まれており、地域のモデル的な農家になることが期待される。